WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十年八月二十日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

第七十二號

東京 女學雜誌社

Aug 188

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 72. August 20th, 1887.

第七十二號

EDITORIAL:—Voluntary Marriage: No. II.

LEADING ARTICLES:—The Value of Good Pattern, by Mrs. True; Woman and Hygine, by Dr. K. Takagi.

MISCELLANIES:—Woman's Suffrage question in America.

CRITICAL NOTICE:—"25th Century, a History of World" (Sekai Rekkoku no Yukusue) by Toyokijin.

BIOGRAPHIES:—Mrs. Fry; Mrs. Atomi Kakei (Concluded).

NOVEL:—"The Fragrat Rose:": No. V; Human Nature Delineated: No. II, by Mrs. T. Nakashima.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社説　男女相擇の説

●論説　善良なる摸範の價値（櫻井女學校教頭ツルー夫人）○女子と衞生其六（高木兼寛君演説）

●叢話　女權伸張の景况○八丈島婦人頭髮の長き理（坪井正五郎）

●批評　世界列國の行末の評

●佳傳　フライ夫人の傳○跡見花蹊女史の傳（第二）

●小説　薔薇の香第六（月のやしのぶ）○善惡の岐（中島俊子）

●寄書　文苑（鈴木弘恭君選）○聽子規有感（壹岐定女）

●新報　十八件

●廣告

○女流小言漫錄（第一）

○女生徒が洋語交りの言葉にて朋友の批評、教師の惡口又は堅くるしき漢語にて父母への理屈など思はず耳を塞ぎ度き心地ぞする又男子の席にて差出口する事、あるは解りもせぬ學術上の議論抔大音に喋り立つるなど聞惡き者はあらじ

○白きハンカーチーフに首を纏ひ、目鏡鼻の先きにかゝり、肩を怒らせ大股に歩み出るなど見惡きものはあらじ、人の入り來る時四五人互に咡き合ひあたり見廻しクス〳〵と笑ひ出で又はあひさつの尊大げにいかめしく人を鼻の先きにてあひしらふさまなど失禮にかつ心惡きものはあらじ總じて女たるべきものは謹愼淑德の風をば尊ぶべけれ世の淑女たち己が威をしめさんなどの心はかまへて持ちなし賜ひぞ

○女外に出づる前服裝の時間いと長く門外に車夫のあくびしてつぶやくあり良人の不平氣なる顔して待つも氣の毒なり女はつね〴〵外出の用意などし置き此の邊にはわけて氣附くべき事にこそ。

○各女學校にて禮法の教授ありと聞くされども女生徒たち常〴〵のあゆみかた物のとりあつかいざまなど暴〴〵しく禮法を學びし人とも見へず如何のわけにや。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第七十二號
明治二十年八月二十日

●社説

○男女相擇の説（下）

西村君今日以後の少年男女の爲に夫婦撰擇の良法を撿窮し終に左の八則を定めて其軌範と爲さんとせらる云々

第一　夫婦の撰擇は父母之を擇ぶも男女自ら之を擇ぶも時宜次第にて何れも之を許すべき事

第二　父母之を擇ぶときハ其子女の意を問ひ同意を得たる上にて之を決すべき事

第三　男女自ら擇ぶ時ハ其父母後見人の意見を問ひ同意を得たる上にて之を決すべき事

第四　父母の擇びたるものにても其子女已が意に協ハざる時は明かに己が意を述ぶべし其言若し理あらバ父母は之を聽かざるべからざる事

第五　男子の擇びたるものにても或ハ妓女其他不正の業を爲せる婦を娶らんとせバ父母後見人は之を禁止することを得べき事

第六　女子の擇びたる者にても其男子の性質不良又は品行不正なることを知る時ハ父母後見人は之を禁止することを得べき事

第七　父母なきものハ男女自ら擇ぶは勿論の事なれども他の尊屬親又は朋友の意見を問ひ同意を得たる上にて之を決すべき事

第八　男女自ら擇ぶの場合に於て其親族朋友若し其撰擇を不可なりと思ふときは必ず本人に之を忠告すべき事

右八則は眞に公平穩當にして毫も不同意を表すべき廉なし如此して撰擇せば彼の言ふべからざるの不幸は必ず之を未然に防ぐを得て夫婦の間だ所云る喧爭の如きことあるなきは必せり然れども是は少年男女の家に進士及弟の門を開き候補者續々踵を接して來る時父母若くは少年の男女手に試驗の課目を持ち一々進士の資格を吟味し以て稗子を去り麥を收るにあらずんば非常の逸物を得がたし當今男女交際の道未だ凡く行れざるの日に當りて只此八門を設けて良婿佳嫁の來るを待つは恰かも文明の漁夫四ッ手網を廣ろげて魚の自ら入を待つの歎あり之に由りて喧爭せざるの夫婦を得んとは確に望み得べしと雖も以て琴瑟和樂吾人が所云る起居坐臥出入昇降の間二人相見て互に心情の喜悦を交ゆるが如きものを得んは眞に稀少

きとと云ふべし故に思ふに右八則に加ふるに更に一條の交際方を備へ英才をして親しく某家族に往來するの便宜を與へなば彼の八の門は則ち悉く生門となるべし

蓋し痴漢駿馬に跨り美人醜男子に伴はるとは昔し馬琴翁が活世界を看破したる冷評なり然るに近來續々世に出る新版の小說本を見るに云く佳人才子に會ふ云く秀才閨秀に知らると浮雲轉變の間だ大率ね良夫婦の結緣を以て事を畢るが如し明治の天下は果して如此き好調子の世の中となれるやと云へば其實際は全く之に反するを憾まざるを得ず不幸無限と云ふべきあり左れば千里の馬何如に驥北の野に嘶くとも世に伯樂少くして之を良家に案內せざれば細密の登用規則も殆んど半文錢の價値なかるべし吾人は彼の八則の完全穩當を得たるを喜び其の廣く行はれて良夫婦の增加せんとを希ふと勿論なりと雖も願くは別に一條の掛橋を架し世上の通弊たる有害の男女交際法を制して專ら愼謹なる求婚交を家內に行ふの便を設けんとを願ふ故に云く

第九　妙齡の娘を有つ所の父母は時々家內に小宴を開き少年の男女を招待して淸潔なる遊事を催すべし此際父母は當會の主人公と爲て能く万事を管理し其愛娘及び惣べての客人をして愉快に懽樂しむるの傍ら玆に好逑を得るの緣を開かしむべき事

如此して所々の良家に小宴を開き經歷申分なく品行差支なき少年の男女に限りて客とし以て彼此雙方相親近するの途を備へたる以上は更に左の細目を規則として一層の近かづきを得せしむべし

(一)すでに相知れる男女は其女子の家に於て親しく交際するを得べし(二)男子其の知れる所の女子を訪ふ時もし其家に父母在らざるとを聞かば直ちに歸るべし(三)父母は其娘と共に男子の來客を待し成べく自由に交際せしむるとを覺悟すべし

如此して男女嚴密なる規約の下に相ひ交際して談話遊樂の間に雙方の氣質を承知し偖て彼の八つの方則を以て撰擇を實行するの順序となさば事始て完きを得べしと信ず蓋し最上の好夫婦は善男善女の交にあらず亦た美人才子の結緣にもあらず彼の所云る氣質投合して合性のよく相ひ適ひたるものを以て之と爲すなり然るに氣質投合の何如を知るは當今すでに四種相應の舊法を用ゆべからず亦未だ理學の解釋を得るに至らざる以上は勢ひ詩人が謂ふ所の電氣的の親和に依りて之を承知

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

するの外ならざるべし故に男女相交際して其合性の親和如何を實際に探知し且つ父母後見人の助言を以て其盲目の過に陷るの弊を防がば日本の天下幸にして數多の良家族を作り出すことを得べきものなり

（右男女相擇ぶ說の上は女學雜誌第六十二號に出づ兩篇を以て西村茂樹君の論文を批評したるものなり女學雜誌發行停止及び時事必要の論話ありて遂に其續出を延引したり）

● 論說

○女學雜誌社　第二回女學演說第四席筆記

善良なる模範の價値

佃龍雄　筆記

櫻井女學校教頭ツルー夫人演　峯尾榮子口譯

私が今日本姉妹の方々に向て演述する事ならんとするも既に皆樣は前の辨士三人の面白き話を聽かれた後なれは私の話をお聽なさるべしとも思ひません又何の話を致したらアナタ方を滿足せしむるに足るべきか之を定むるに誠に困難で御座ります。

私は日本の姉妹方の地位を見まするも大なる働を要しますることを知り又此働をして高尚の度に達せしむるには玆に彼の困難に逢て戰かはなければならぬ時と思ひます故に私は今此等の事に就て種々の模範となるべきことを申す積りですが其申しまする事が若しアナタ方のお勸めの一助ともならば誠に幸であります。

私は此お集りになりました方々に向て一の問が頻りに起て參りました即ち婦人各方の大なる目的は何かとの事です尤も此事は位置を擇で申すのではありません私共は私共の位置アナタ方はアナタ方の位置で位置に於て異る所はありません。

斯樣なる問に向て妻たるのお方は定めて對へられませう何事も不自由なく暮したいこと。

然れ共私は一言此婦人方に向て注意を惹起したい正しき働を為す所の誠に愛すべき賢き妻と為ることをお望みなさい、

アナタ方は毎日誠と云へる總ての事より尊き一字を能くお考なさい又アナタ方は友達に交るに就ても小供等に能く敎へてお置なさい。

アナタ方は小供達の勉強に能く氣を附けて學校に於て眞實の生徒となる樣に御注意なさい此に就て私は一寸申し置ますが母親の愛に因て其小供の如何なる小供かを知ることが出來ます又其尊びの大小と云ふ者は母親の如何に大なる關係を有して居る者であるかを示すものでござります窃に思ふに小供の着物抔につき其齡の如何に注意を怠る母親が世の中にはあると存

します又食物の良否抔にも注意を欠く母親がある甚しきは其小供を以て已れの召使なりと思ふて居る母親が世には數多なると存じます。

若し又人の娘たる人があらばアナタ方は兩親の家と聲譽とを立派にする樣になさい又學校に入るならばアナタ方の模範となすべき者は何か又日々學課を勉强して進歩を早めるとに注意なさい。

アナタ方は卒業した後に大なる仕事を爲さうとしますか或は毎日宜しき事を爲さんと思召されますか又問ひます諸君は熱心なる賢き重き女子となるが目的で御座いますか又總ての事をなすに深切なるとを望で居れますか又諸君は御自分で力を盡し世に有益の業を起さうとしますか若し然りとせは我姉妹方よ我大なる誠の所にアナタ方は既に達して居るので御座いませう。

若し此の如き望を諸君が抱かれて居るならば我邦の人民の固より爲すに難からぬ事で此高き點なからも望て達せられぬ事はありますまい何所までも已れの力を奮て進まれんとを願ひます。

諸君が今迄に爲したる事の中にて澤山に多くの强き敵に當りしとが御座いませう其時は自分の心さへも戰爭の巷となるで御座います此際に當ては隨分氣高き人にても失望の餘り事を誤るとは實に多い事であります。

故に望みばかり高くともいつも失敗の爲に其操を替る樣に至りますから眞の力を養成するとか肝要です若も目的を達せんとするの途に横はる妨げがありましたならば誠の力を奮て楷子段をお登りなさい必ず此大なる楷段を忘てはなりません。

今の時勢にては婦人が活潑の氣象を修むるは必要であります花を活けたり琴を彈たり又奇麗なる着物を着けねばならぬ抔と謂は頗る活潑に激しき事をなすには不適當で御座ります然しながら私の愛する姉妹方よ格別に諸君に申すが精神を能く磨き眞に高尙なる志をお立なさい勿論宿所の樣子を描き或は家の建方を描く抔は隨分六ケ敷が能き模範を置て我儘の心を棄てゝ日々之を爲し行ふは恂に容易なるとの樣でなく六ケ敷事であります。

私は諸君に如何なる處置振りが宜しきかお尋ね申しませう若もアナタ方が各國の歷史をお讀みになれば直に解るとでありますが今古の婦人が達し得られたる點即ち模範を一々示してアナタ方は何れに似やうとなさるゝか渾てアナタ方の採擇に

任せませう。

眞に我儘にして無學なる女があります又小供の樣な馬鹿らしき女もあります又容貌を華麗にして自ら喜ぶ所の女子もある又交際の上手なるを以て驕る女もある又智惠を磨くより安樂に世を送りたいとの怠惰なる女もあります又正しくして且つ臆病なる女もあります又智惠を開くより奇麗の着物を着た方が宜しいとの馬鹿らしき女もあります又無上に大膽なる女もあります又心の廣く最も熱心なる女もあります又能く心を磨き公平の說を主張する婦人もある又メレーライチンの申せし如く己の務を怠り己の爲ゞる可らざる事をなさずして送るは尤も大なる苦痛とする婦人もありますアナタ方は此數々の中に於て孰れを採り何れを模範とせられますかお尋ね申ます。

○女子と衞生（其六）

海軍々醫總監　高木兼寬　演述
林　茂淳　筆記

其れにはドゥ云ふことをすればいゝかと云ふに第一に茶漬と澤庵は惡いお客さんです。これが人の死のを助けるお客さんです。米はいゝやうですが若い時分にはふとりますけれどもはや三十を超ればパーサンになります。其の惡い證據は米を澤山たべます方は大抵脚氣の病人樣です。モト食ひ物は腹さえふくれゝばいゝと云ふものでは有りませぬ。家屋を作りますにも柱にするには柱になるものを持って行かなければならず腰かけにするには腰かけになるものを持って行かなければなりませぬ。と同じ譯のものです米ばかりでは人のカラダを養ふにはむつかしいです。米のことに付ては學問上のヤカマシイ論が有りますが其れはお話ししても分らぬ方が多う御坐いませうから其れは擱きまして食ひ物はドゥしたらよからうかと云ふことを申し上げませう。

食ひ物はなにがいゝかと云ふに外國の文明國と唱へる所の人のたべる洋食即ちパン食、肉食それに野菜を用る外にはいゝものが有るかも知れないが今日までに分つた内では先づこれが一ばん宜しい。「其れなら米はサッパリやめなければならぬか、米は毒になるか」と云ふお方が有りませうが食ひ過ぎるから惡いのです、いゝ加減ならさう惡いことは無いです。「洋食は迚も出來ぬ、金がかゝる」と云方が有りませうが其れは子供の時から澤庵に茶漬で育ッたから出來ぬのです。尤もいゝからと云ッて急にするのは無理ですが追々に移るやうにしなければなりませぬ。

先パンがいけなければドゥしやう。麥の方がいゝです。ドゥし

ても米を食つて居るよりハ麥を食つて居る方が丈夫です。これにも色々論の有ることですが犬を麥と米とで一年餘飼ひましたが六疋の中三疋にハ麥に副物を食はせ三疋にハ米に同じ副物を食はせておきました。ところが一年と三箇月の中に米の御飯をたべさせておいた三疋の內二疋ハ死んでしまつて今一疋弱つて居ますか麥の方の三疋ハ丈夫で居ます。また其前に米に肉を副へ之と同時に米ばかり食はせて例したのに肉を食た犬の方がシッカリして居ましたが米ばかりの方は早く弱り終に死にました。アナタ方も米ばかりあがつてお出なさるとお氣の毒ですが早くオバーサンになり、また男の方も早くオヂーサンになり終にハ若死をします。

今こゝでお話しするのハこれハ横須賀鎭守府の惡いことをした人を牢に入れ置く所の話です其の所の人ハ內にばかり居るのでハ無く外へ出て色々仕事をもするのです先きほど上げておいた表の大きい方を御覽になるとお分りになります明治十六年にハ一日平均四人の數が百十三人、十七年にハ百二十八人、十八年にハ百六十八人で有りましたところが脚氣に罹つた者が十六年に六十九人、十七年に七十三人ありましたが十八年にハ一人も無くなりました。人員と患者と百分比例にしますと十六年が六十一人ばかり十七年が五十七人ばかり十八年が無くなつたのです。

其の次にハ一般の患者の數で十六年にハ百分比例にして二十六人、十七年にハ二十四人ありましたが十八年にハ僅か三人になりました。

次にハ其の惡いことをした人たちにたべさせた食料のお話しです。十八年に病人の少ないのハ麥を餘計にたべさせたからです。麥を餘計にと云ふのハ米を四分、麥を六分にしたので、さうしたら脚氣はマルデ無くなり他の病氣も大層少なくなりました。これは百六十八人を一年の間、例したので脚氣は一人も無く其の他の病氣も大層減りました。其れハ論より證據です。だから、たべるにハ少しツライこともありませうが早くオバーサンになるよりも長く若く丈夫にして居た方が宜しう御坐いませう。洋食にする方がいゝと云つたからとて直ぐさうもいかぬから先づ麥を餘計たべることゝしてパンにしても宜しいし團子汁にしてもいゝから少しでも麥の方に傾くやうにし今まで米一合と云ふ所は五勺にしてアトを麥にするやうにしたら今まで醫者樣に一年中百圓づゝ藥代を拂つたのハコレカラは三十圓にもモット少しにもなりませう。さうなつたら

横須賀鎭守府監獄署囚人脚氣患者表

年度	一日平均囚人數	脚氣患者數	人員百分患者比例
十六年	一一三人	六九人	六一•〇六
十七年	一二八	七三	五七•〇三
十八年	一六八	〇	〇

全署囚人一般患者表

年度	囚人延人數	患者延人數	人員延數患者延數百分比例
十六年	四一、三五八人	一〇、七八九人	二六•〇九
十七年	四六、七二〇	一一、二四三	二四•〇六
十八年	六一、三二〇	二、二五六	三•六八

全署囚人食料表

年度	米	麥パン類	肉類	魚類	野菜	味噌	醤油	糖類
十六年	二六五、二〇匁	〇	八、二三匁	二五、六八匁	六四、九八匁	一三、二〇匁	一八、一五匁	〇、三六匁
十七年	二二七、八三	五、二五	一六、九五	三七、五〇	九八、三七	二一、七六	二一、三一	〇、六七
十八年	一〇一、一四	一三五、三三	一二、二七	二六、八九	八五、九三	一八、二四	二三、四四	〇、四六

各囚人一日ニ食用シタル食品中ニ含有セル窒炭二素ノ量ハ大畧左ノ如シ

年度	窒素	炭素	窒素一ニ付炭素比例
十六年	二一六瓦	七〇五四瓦	三二•六五
十七年	二五八	六六一六	二五•六三
十八年	二八九	五八三九	二〇•二〇

醫者も困るでせう私も醫者でありますが皆さんがさうしてさえ下されば其の邊には構はないです若し困れば外に何か商賣をしますから。

病人が少なくなると云ふことをドウして知るかと云ふと仕拂帳を精密にして置いてコトシは藥の代がイクラかゝッたと云ふことが分ッて居らなければなりませぬ。之を知るやうで無ければ益になるやうなことをすることが出來ないです。今日世帯を持ッてお出でのお方は此に御注意をなさらなければならないです。藥代の減るのは麥が安いからと云ふのでは無い。麥の爲めに病氣に罹る者が少ないからです。米の爲めに最愛の夫だとか誰だとかが病氣になり醫者樣にかゝり其の上に親類の人は見舞やら何やらで大事なヒマをかき、其れも治ればいゝが若し治らずに死んでしまふとすると其のアトはドウでせう法事だとか何だとか云ふことをしなければならず實にツマラヌ話しです。ところが病人が少なくなればさう云ふことは少なくなり目前は兎も角も五年十年二十年とたッたら大變なトクになるでせう。

終りに臨んで申しますが世の中には「其れはいゝことはいゝが我々の代には出來ないから子供にさせやう」と云ひ、また

中には「我々は今まで茶漬と澤庵で育ッたのだから今變へてはいけない」など云はれませうが其れは間違ひです。コヤシをよくすれば何でもよく／＼とれます。人間と云ふものは他の禽獸や草木と同じことで有るのに違ふと思ふと間違ひです。花壇を拵へて同じ草花を植てもコヤシをやつた方は花が早くより開きこれをやらざる方は花がよく開かぬと云ふことはお分りでせう。猫のタベモノでもよくしてやると鼠を捕るが食ひ物をよくしてやらないとゴロゴロして居て鼠が出て來ても寢て居るです。また獵犬などは肉を食はせると大變役にたちます。また皆さんが「子供の代にやらせる」とお云ひでせうか御自分が出來ずに子供にやらせることが出來ますか。御自分がやらなければ子供の爲めに何をしてやるにも何がいゝか分らぬから子供には年を經るまで手も足も利かぬものを着せて其發育を大ひに妨ますまた其の子供まで及んで行くやうになります。今日さならぬと子も孫も曾孫の代までも我々の身體の少さくして弱いことがつひて行きます。

また食ひ物でもさうです。牛の乳などを「子供が飲まぬと云ひます」などと云ふ人が有りますが親が洋服を着ると子供も洋服を着たがり親のたべるものは子供はほしがります。子供は假令ひ害になるものでも親のたべるものをたべたがるものです。牛の乳なども「ドゥも嫌ひだ」と云ふ譯は無い。親がたべないからです。食ひ物のことも玉子にいたせ何に致せ總てのことが自分がたべるやうにせんければ一般には行なはれませぬ。(未完)

● 叢話

○女權伸張の景況

女學雜誌第六十九號の社説中歐米各國に於ける女權伸張の景況を略述したるに此頃左の如き問を寄せたるものあり

歐米各國の中にて米國は尤も隆んに伸張論行はれ候由御論述被成候が其景況を更に細かに説明を降候はゞ幸甚と存じ候あり

答。先づ亞米利加合衆國にて所云る表面よりして女權の伸張に熱心する婦人達の多きとは前にも畧ぼ相述候然るに其婦人達の中には或は男女雙方とも其給金を力次第にて受取べし今の如く女と云へは特更に其金額を少くする如きは眞に男尊女卑の餘弊なりと論ずる輩もあり、或は大學に入りて男生徒と同樣の授業を受け又は法官になりて男子と均しく裁判の權を握らんと何んかならん何も女をば特更に禁制すべき理なし今

に至るも尙ほ女子の入學を許さゞる學校あり又法官となるとを律令に於て許容せざる如き實は男尊女卑の餘弊なりと論ずる族もあり、何れも熱心に論辨して其風習の改らんことを主張すると一に女權伸張論を爲すものに相違なく其外にも尙ほ種々の盡力風はあれども其中に就て尤も婦人社會惣躰の注意を惹きて而も尤も熱心に其盡力する所とあるは即ち女子投票權の許可を請ふの一事に在るが如し彼地の新聞雜誌にウーマンス、サッフレーヂ、と題して喧しく論辨報告するは悉く此れに關するものあり。依て只今ま此の一事の景況を畧述し以て米の合衆國における女權伸張論惣躰の有樣を推知するの便りと致すべし

女子投票權とは學校の管理、府知事の撰擧、議員の推撰等に關し女も男同樣入札の權を有するとの儀にて此の權を得んが爲に過る四十年間熱心に盡力したれば當今に於て先づ左の如き許可を學ぶに至れり

公立學校の管理方に付て投票權を女子に與へたる場所は十四州あり即ちニウハムプシア、バーモント、マッサチウセット、ニウヨーク、ミシガン、ミンネソタ、ネブラスカ、カンザス、コロラド、ケンタッキー、井スコンシン、オレゴン、インジアナ、ニウゼルシー及びイダホー、ダコタ、ワイオミンの三領あり此中にも投票權の許可に就ての區域權限等は皆なそれ〴〵に相違あるものと知るべし此外ウタ一領及びワシントン領にては近年まで其權を有したれども當年に至りて消滅したり

右の投票權は與へざれども婦女子を學校の役員に使ふことを許可する土地あり即ちイリノイ、アイオウ、ルイジアナ、ペンシルバニア、及び、ロードアイランド、テンネッシーの六州これあり其外カリフォーニアにては州の法會に依て禁制ありたる以外の學校役員職は女子之に就くを得べし井スコンシンにては學校取締州長を除くの外は總ての學校役員となることを得べしメイン州にても多少の制限ありコンネクチカット州にては學校見廻りの職のみを許すなり

扨て右投票權の權限は各州に依て相違ありと云たりしが例へばマッサチウセット州にては學校委員の撰擧のみを限りミシガン及びバーモント(ニウヨークも近頃までは)にては租税を拂ふ所の婦女子のみ此權を附與しオレゴン州にては租税を課すべき財産と敎育すべき子供とを有する寡女にのみ此權を附與しインヂアナ州にては租税を拂ふ丁年以上の獨り者にのみ之を限りたるが如し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

前に擧げる州領の中にもワイチンミン領にては女子に十分の權を與へたり即ち千八百六十九年以來男子と同等の權を有ちて投票するに現今にては反て男子の數に優りたるほどの入札を爲すに至れり

又右學校の事に關する投票權のみならすアルカンサス及びミッシシッピーにては酒營業許可の事につきて女子は投票權を所有し。此頃の新報中に記したる如くカンザスにては一二三等の都に於て(三等の都とは五百人の人口あるもの)男子同等の投票權を所有せり

米の合衆國に於ける女子投票權許可の實况大抵右の如し之に依て從來女權伸張論者が收め得たる働の結果を知り又其の尙ほ彌よ働いて其地歩を進めんとする模樣を推知するに足るべきかと思考す

○八丈島の婦人頭髮の長き理由　坪井正五郎

伊豆諸島の婦人の髮は概して言へば何れも東京の婦人のより長くございますが八丈島の婦人のは一層目立て延ひて居ります私は八丈島末吉村で佐藤ツヰ(二十六歲)沖山トウス(二十八歲)の二婦人から其髮毛を十本計宛貰て來ましたが兩人とも少し俯むけば髮の先が地に付く程でございます稀には一尺位地を曳く者も有ると聞きました扨島々殊に八丈島の婦人の髮の長いのは何故で有りませうか氣候で有りませうか食物で有りませうか共に然る可しとは思はれません好き椿の油を付けるかに因るとか水の性だとか云ふ人も有りますが元來毛の延びるのは既に成長して皮膚の外に出た部分が次第に長くなるのでは無し根の球の中に在る乳狀突起の表面の細胞が常に數を增して段々に毛の纖緯部を作り段々成長した部分をば上へ〱と押し上けるのですから水や油に直接な關係は有りません然らは何が原因でございませう私は疑もなく髮毛の取扱の好いのが原因だと思ひます大島にはシマダ、インボンジリと云ふ二種の髷新島にはカワラ、ムスビサゲ、シマダの三種神津島には結び髮計り三宅島にはシマダ、カウガイマキの二種御倉島にはオホシマムスビ、カウガイマキの二種八丈島にはシマダユヒと結び髮の二種の髷が有る丈で何れも堅い油を付ける事もなしきり〱と縛り付ける事も有りません此樣に結ひ方が手輕ですから解いて洗たり梳たりするのも隨て容易でございます何れの島の婦人も一日一度位は必ず髮を解いて梳く樣子ですが八丈島の者は通例が一日二三編多いのは七編位も梳ては結び直すのです家に居る時も山に登る時も濱に居る時

も外に出る時も用の間にも使の途中にも時を擇ばず所を嫌はず思付きさへすれば櫛を使ふと云ふ有様ですから櫛は常に手放さず頭に差し小娘抔は櫛を落さぬ爲に長い糸で髷に繋ぎ付て居ります如此譯故髮毛は自由に延びて天然の成長を全するのでござります八丈島の婦人で東京へ來て數年間固い髷を付けて居たらば古い長い毛は追々に脱け新に生へた毛は皆短く元來身の丈に餘だ髮が辛じて膝に達する位に成て仕舞たと云ふ者さへ有りますから生れ付き髮を自由にして置くのと子供の時から固め付けて置くのとでは長短の差を生ずるのも道理でござります東京の婦人でも常に結び髮にして置いて一日に二三遍も梳いたり洗たり爲るならば八丈島の婦人程には至らざるも從來の者よりは長く成るでござりませう抑獸類に躰毛の有るのは寒暑の變動を急に躰に傳るを防ぎ器械的の刺撃を避ける爲で有りますが他に手段ありて是等の必要無き人類の身躰上にも遺存して居り殊に頭髮の如きは他動物に越えて延長して居ります猿類にも頭髮の長いものが無いでは有りませんが中々人類には及びません頭は腦の在る所で固より充分に保護を要するには違ひ有りませんが必要なる部分を過ぎて尚ほ延長すると云には他に原因が有るでござりませうダアウヰン氏は多分髮の長いのを飾りとして雌雄淘汰に因て追々今日の有様に成たので有らうと言はれました北アメリカ土人中クロウスの酋長は髮の長さが十フヰート七インチ(一丈計)有た爲に撰ばれたとの事です我國では男の頭髮の長いのを貴し事は聞き及びませんが女が髮の長いのを貴んだ事は珍く有りません昔の女の髮が長かつたと云ふ事は人も云ひ書にも記す所ですが之は髮を後に垂れて自由に成長させたのと恐くは男子が妻を擇ぶ個條の中に頭髮の長き者と云を算へた爲でありませう今日では妻を擇ぶに髮の長短の穿鑿を爲す者も無く結髮或は束髮にする故髮が短いとて目立もせず萬一入用なる時には髢を添へる故一向差支がなし其上に成長を妨げる樣なる取扱ひ方をするので追々短くなる傾が有ります伊豆諸島の婦人も本州の婦人の風を眞似る樣に成らば次第に髮が短く成るで有らうと信じます。

○批評　(第二十八回)

(37)　世界列國の行末　(中本一冊(二百卅一頁)定價六十錢 發兌所東京日本橋區檜山町辻岡文助)

此書は髙安龜二郎氏が未來二十五世紀の頃の列國の形勢を想像して其行末を預言したるものなり然るに其著述に於ては勉めて東洋女子の氣風を一變し活潑の公園に運動せしめんと心

懸られたるよし著者の來示を得たれば謹んで全卷を通讀したるに東洋參島(今の日本)の一女子タチバナ娘邦國が波軍に蹂躙さるゝを慷慨して米の合衆國に遊説し後ち義勇兵に將として不意にバルチック海より波國本部に上陸し直ちに國都セントホール府を衝擊して容易に府民を屈從し終に萬國列席の大會議に於て委員七十五人の中に立ち彈劾委員長として皇帝ツドフレンを彈劾するに至る終始悉く是人間に羽を附して自由に戰國を飛廻るが如し若如此ならバ眞に爽快至極なるべしと雖も人世の事實に至難にして此千分一の樂あらざるを憾む。

(38)、自由の犠牲 女權の擴張 景山英女の傳　(中本一册(四十五頁)定價十五錢 發兌所東京大傳馬町成文堂)

此書は清水太吉氏が今回大坂の國事犯事件に關係したる景山英子の經歷を傳したるものなり同子は幼時夙く過激の風あり後ち東京に出でゝ學を修め其間自由黨の壯士と往來して時事を談論し常に國事に奔走するとを樂みとしたるが磯山小林の徒之を用ゆるに足るとして遂に今回の事件に關係せしむるに至れりと云ふ其獄裏の作に

愛國丹心萬死輕。　劍風彈雨亦何驚。　誰言巾幗不成業。
神后當開赫々名。

心あらばかゝりし雲も晴よかし淸き今宵の月をこそ見ん

傳よと云ふ英子が磯山氏より支那革匣を托されて之を大坂の安東某に送るとき自ら其何物たるを知らず不幸にして爆發物取扱條例に觸れて此に至ると蓋し他日公明の判決を見て更に一言するの機あるべし

● 佳傳

○エリサベス、フライ夫人の傳　(はーがき)

今を距る四十餘年の昔し此世を去り逝かれたる英國の慈善婦人エリサベス、フライはノーヰッチの人ジョンガーチーの娘にして西暦一千七百八十年に生る後ち倫敦の商人ゼウセフ、フライ氏に婚を結びしかば之れより今に至るまでフライ夫人として其名を留められける。

フライ氏の一族は初め倫敦の都に住居せしが後ちエッセックスと云へる田舍に移りぬ婦人は此時より漸く其慈善の仕事を始め其邊に於て裸かなるものあれば之に衣せ饑へたるものあれば之に食ハせ憫れむべき婦人よは勸言を與へて其方向を案内し貧しき人々には聖經の教を授けて平和を得さするなど之を其子の如くに慈くしまれしかば人々は皆な夫人を尊とみて母の如く敬ひける特に貧家不良の民の常として其子を學校に

送るとあどわらざりしを夫人が玆に來りてよりは會ふ人ごとに之を諫めて教育の忽せにすべからざる旨を諭し尙ほ神の道の一日も廢すべからざる由縁を教へたりしかば後にはエッセックスの近傍には子弟を學校へ送らず家に聖書を讀まざるが如き族を見ざるに至りける。然るに夫人は尙ほ自ら種痘の術を學びて能く之に熟練し公けに其業を施して近邊の幼兒に悉く之を種へ一人も洩るゝことなからしめたり斯て夫人が三十二となられたる頃ろは其慈善の恩いよ〳〵廣ろく行れたるのみか其の自らの靈の經驗も大に熟したりしかば兼て久しく牧師の任を恐れてあかく〳〵に尋常の人の得て就くべきものにあらずと戰栗れたりしを此時遂に斷決して主に據り此

の榮へある職を行はんとに定め人々のすゝめに應じて遂に耶蘇教々師とはなられける蓋し夫人はクエーカルと云へる新教の一派に屬したれば其宗旨の信仰として婦人の教師牧師に擧ぐることを可としたるに由るなり。

其後三年を過ぎ婦人が三十四となられたる時始て彼ニウゲートの獄を見舞はれたり當時玆に三百餘人の女囚あり只だ四の小さき室内に群りて晝夜を辨せす惡口雜談に時を費やし啻に其罪を悔ひざるのみか稍や良心の責めあるものも尙ほ彌惡きに誘はれて遂に反りがたきの地獄に陷り行くものあり左れば普通の人にして此の獄を省みるものなくこれを監守せる牢司すら尙ほ巡視することを好まざりしと云へり然かるに夫人はバック

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ストンと云へる紳士の妹とともに之を見舞ひて子細に其の憫れむべき景况を視察し茲に至りて滿腔の慈善心激昂して禁へがたく遂に彼の記臆すべき獄内の働を爲されける

○花蹊女史の傳　（其二）　（萬里小路桃子、和訓）

天南遯叟、已卯の春に於て、東瀛に薄遊し、道長崎を經て、余元眉か中翰署齋に詣り、壁間に懸たるを見に、女史の畵あり、心之を識るし、繼て神戸に抵り、廖樞仙か廣文樓中に小飮し、女史の書畵詩詞を見るを獲たるに、三絶と稱するに堪ゆ、女史は日東の嬌然特立ある者たるを知れり、東京に至るに迨び、旅居最も久し、女史講を東京女學に主どり、及門桃李の盛ある、殆んと與に比するなく、時〻使署の人員と往來唱和し、而して何張二公使に於る尤も密なりと聞、亟に一見せんと欲し、書を蒲生子閣に貽りて曰く、聞く傅粉の何郎、畵眉の張敞、時に女史を見る、樞仙元眉、更に女史の詩書を乞ひ得たりと、鄙人不敏、敬んて後塵を歩す、子閣即ち爲に轉達して、期を訂し相見せしめよと、已に成約あり、適〻に遯叟同人と偕に晃山の行あり、客裝已に具はりて、果さず、始て一見の緣も亦數の其間に存するあるを信ずるなり、遯叟既に日光の山麓に至り、時青環碧の樓に宿し、壺酒獨酌す丸月檣を穿ち、飮んて既に薄醉し、几に隱りて假寐す、忽ち見る一女子の珊々としてすゝみ來り、蟬鬢縞衣、時世の裝束に非す、手に名片一紙を持ち、上に雲隱と署す、何人ぞと詢す、答て曰く日光の山神なり、特に君を召すと、遯叟之れか爲めに肅然容を改め、出れは則ち車を駕し以て待つ、須臾にして、已に一處に抵る、壯麗髣髴として王宮に似たり、闥を歷ると數重、大文閣に至る、雲隱君に謁見すれは則ち一十七八歲の麗人なり、起て遯叟を延き、入りて主賓の禮を行ふ、女曰く此山の神、南北東西、主者凡ろ四、余忝なく其一に居る、君は中原の文士たり、幸に敝邦を履み、特に幽明の嫌を冒す、一たひ芝宇を見て風雅を敬慕す、願くは詩詞を乞ふと、虬髯公の圖を出し題を、求む、遯叟も亦辭せす、慨然として筆を援り、二十八字を書す、云ふ一騎匆々海東に去る、自ら憐む地の英雄を著くるなきを、窮途落魄誰か相識らん、反て裙釵冷眼の中ゟ出づと、女連りに佳作と稱す、閣數に趨りて同觀を出る者あり、丰韻淡遠、一世なる可らす女指して遯叟に謂て曰く、此即ち君か見んと欲する所の跡見花蹊なり、遯叟爰に座を離れて、長揖し、士相見の禮を脩む、須臾に玉斝を以て酒を斟み、遯叟に進む、琥珀の色を作す、女曰く此れ桃花釀なり乃ち瑤池千歲の桃花を以て釀す所、凡人は飮を得

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

す、特に醉易きを嫌ふ耳、遜叟連に數觥を擧け、侍婢又胡麻飯を進む、甘香齒頬に盈つ、遜叟方に起て謝せんと欲す、遽然として覺むれは、則ち身固より旅樓に在り、晃遊して皈り、遂に內渡す、僅かに女史を夢中に見るのみ、花蹊と時同ふして並ひに才名を負ふ者、文鳳と曰ひ晴湖と曰ふ、文鳳は子闇己に爲めに傳を立つ、長く朽ちざるへし、晴湖の姓は奧原、性孤冷、流俗人と往還する罕なり、故に時に稱せらるゝ所なし、花蹊は聲氣廣く通じ、既に常に宮中に出入す、且當代の貴介女公子、門牆に羅致せざるなし、車馬門に盈ち、綺羅席に接す、聲華籍甚なるは、職として此に之れ由る、嫉ふに之を擧る者多ければ、之を忌む者も亦復少なからず、東京日報忽まち訃詞を錄し、其已に死すると傳ふ者あり、弔する者麕集す、而して花蹊固より恙なきなり、乃ち自ら登錄し存を告く知らす何人かこの惡作戲をなす、此れ更に東坡海外の訛傳に異なり善諷子曰く、天下の廣き四海の大なる、鬚眉の男子、畢生聞ゆるなき者、亦復何ぞ限らん、而して女史一の巾幗を以て、名は天闇に達し、華族貴人、咸な弟子の禮を執り、西洋數萬里外の人も亦其筆墨を愛重するを知る、女をして學に就かしむるゝ、豈に盛ならずや、女史の如きもの曠世の奇女子と謂はさるべけんや、

●右は上海の上海申報舘にて發行する點石齋畫報に掲けたるものなり一女子にして外國の雜誌に傳せらる、啻に花蹊君の榮譽に非ず我國一般女子の榮譽なりと云ふべし

●小説

●善惡の岐　（二回）

高島田にやの字の娘五分さかやきに無刀の浪士

中島湘煙女史

深山拾翠が住する村に一の居酒屋あり主人の名を淸助となん呼り其性正直にして愚かならす又淸助の隣家に虎太と呼ふ年のころ廿四五の男あり村家の業を嫌ひて常に誤りがちの漢語を用い無學の村人等を愚弄せるをこよなきたのしみとはなせり二三年前京都に至り或與力の門に就て少く撃劍を學ひしより心中早くも撃劍の先生と自ら許し村に歸りて村人輩を驚かさんものとて當時は村に歸り來れり然かれとも村人輩は皆温和一方にして人とかりそめにも喧嘩口論せす一向虎太が武勇を試すの時なければ果して如何なる手際かはしるもの絶てあらされとも都より修業して歸れりとの名を以て皆彼は勇者なり強いものなりと唱へられたる虎太は或日の事居酒屋の店頭に腰うちかけ主人淸助と四方八方の話し中時に當家の主人公等は先祖代々この近村四五里內外より他へは足蹈せぬ先生故世間の事のしれぬは道理だが僕は一番驚いた事があるさこの

村の事についてあまさ〳〵さ樣主人公か卒に坐を起て驚く程の事にてはあらざるがあの旦那の御娘の事よ淸助、へあの娘御が如何いたされましたか虎太あに外でもあいが實に絕世の美人と云事さ君聞給へ僕が劍術終業に逗留せし京師と云處は日本三都の津の一にして花の都とも云ひまだ外にしかつい字もあるてへ田舍人には講譯せねばわかるまいがこれは學者等の云事にて京都を三美鄕とも稱へりあんと主人公わかるまいがこの三美とは三の美の他國にすぐれたる處ありてありとしり給へ鴨川の淸らかなる東山の雅ひなり文人墨客の世に誇る其中に窈窕たる東山の風姿を倣ふて鴨川の淸流に洗ひ揚たる美人こそ最も通人の贊稱ゆるたけありて先日暮炎熱を洗はんため浴後微凉を趁ふてあゆみあから四條橋上に至りて見給へば柳陰に虫を賣り鴨川の水潺々として流れ凉月は半部を三十六峰の間より現はし橋の欄干に倚りて夜色をながめつゝあると例の美人等が或は三五或は六七長袖を飜へし蓮步遲々と來る樣は觀音樣の現出か天女の使かと疑はるゝ程あるが倚この觀音樣も天女も中々及ばぬはあの旦那の御娘の事にしてこの草深き田舍にかく兩美人の並出せしは僕の驚くも無理にてはあるまいがあに姉娘の方と云ひ玉ふかたは主人公がいまだ粹客の見どころをしらぬと云ふものあの妹娘の二三本亂れ髮の垂れて眼きはにかゝりし時には楚王を迷はせし息嬀ならざれば巫臣を蕩かせし夏姬あるべしと思はぬものは恐くなかるべし主人公に對してか樣の六かしき說法するも無益なり無益ありと語ふ央に獨の旅人入り來りて酒を命せりその身には垢染たる古小袖を穿ち色靑く且黑く眉曲れ眼凹み鼻低くして平かに唇厚くして色紫に肉落て骨尖胸中一物ある惡漢見たるは一見してしらるべし

主人淸助も心中何者あるかと大に訝りこの村にはか樣の人物徘徊せし事絕てあらざりしにそも何用のありてこの入込たる村に來りしか是は必定浪人のねたりものならん定て囊中無一物ならん酒肴の注文にも快く應せざれば旅客は早くもそれと悟りけん錢囊より餘分の價をとらしければ今は主人もその人と爲りを訝るもののみにして金錢には不自由なき人物たるは十分定かあれば命するまに〳〵酒よ肴と差めたり旅客も一醉を傾けつゝ山脉の連る處水流の落る處細かに地形を考へなどして主人に問ひけるにあの山腹に見ゆる寺院は貧的あるか持的なるかして人數は幾程住み居るか主人左樣に候別に金持と申にはあらざれども素より貧き人にはあらず人數は旦那と二

人の娘御と一人の娚御と他は一兩人の召使ひとのみ旅客ゝ、ンシアこつちの山の右の手に揃木老茂りたる中に少き綺麗な二階作りの見ゆるは何人の住家なるか主人あれは撫松庵樣と呼ひ玉ふ君にしてといまだ言葉も了らさるに旅客はなに思ひけん手に持抔其塲に擲ち門前に突立手を叉きさなり〳〵と獨がてんを爲す時しも此家の女房慌忙しく今向より旦那の娘御のこちらをさして來玉ふ樣の優にやさしくまします事よとのしらせに旅客も再ひ座に就き主人とも〳〵今か〳〵と待居たるとはしらぬ二人の姉妹装いねとおのづから玉を欺く容色に晩霞紅を映ずるの夕暮時そよふく風に袖を飜しつゝ酒屋の前に來るころ二人の娘は主人に一禮爲し過んとせしが其傍らに異躰の旅客あるを見て姉は不審かしけに旅家に向て云樣あなたは何の國人にておはするか又この村に何用ありて來給ひしか若も何か不自由のと言はせもはてず旅人は苦笑ひしなる程御覽の通り垢染たる衣服を纏ふを見給ひては乞食と思ひ給ふも道理なるが見へ程には落ぶれしものにあらすがしと言はれて姉は心付唯氣の毒と思ひしより無益の言を吐きし事の愚かさよと悔ひつゝその塲を打過たり旅客再び主人に問樣撫松庵とか言るあの家に行には何れの道をとるへきか主人答て今の娘等の行給ふ路こそ即撫松庵に至るの路にしてその家の近邊はこの村第一の景色にして二人の娘御も屢々その邊を遊歩し玉へは今日も必定あの森さしてゆき玉ひしならん若撫松庵樣をお尋ねならは同し路をとり玉へかしと聞て旅客は支度もそこ〳〵娘の跡を追ひ行たり

この時まで廛の傍へ旅客の去るを待居たる虎太は再び主人と打語り嗚呼今日は僕も無代價の演劇を見物せし事の面白さよ髙嶋田に、やの字の美人五分さかやきに無刀の浪士それに不審しげなる貴公の身振とはよくも役者かそろいたり唯殘念は餘りに幕の短さよ次回の幕は如何なる塲にやあらんかなとゝ口にまかせて戯れたり

●小說

○薔薇の香

第六回　粧飾の愛　　月の舎　しのぶ

お孃さまもうお仕度を爲さいましては何如がですか。

アイ、何時ですかチー、チヤ〳〵六時すぎましたチ、それでは姥やあの着物を一寸つと出してくださいな。

ハイ、どれになさいますか、あの…日本のお召で御座います

か。
イヽエ洋服ですがネ、今夜は大層お集りなさるから、サアどれにしませうか……アレは此間着て出ましたし。
まだ伺ひませんでしたが今晩はどう云ふお集りで御座いますか。
エ、何んです、その此頃は追々と交際が盛になりましてネ、あちらでも此ちらでも男女うちまぜての會がありますがどうも弊が多くつていけませんから、うちの學校の先生はあゝ云ふお方ゆへ、どうか立派な雛形になるようお交際會を起したいつて、お催うしに成るんですが……それはそうと洋服はどれにしませうネー婆や。
左樣ですねへ、そう云ふお集りでは定めし晴々しいお遊びもありませうし。
イエ、遊びつて何もそう遊びと云ほどの事もありませんがネ、白河さんが文章をお讀なさるし、內海さんがピヤノと云つて西洋の音樂をなさるし、私はとう〳〵演說をする番に當つたノ。
それはまあ、ちつともお話を爲すつて下さらんもんですから存じませんでしたよ、モウお仕度は出來ましたのですか。
仕度……アヽその仕度は出來ましたがネ、ネー婆や洋服は今夜は黑が好いでせうか。
そう云ふ御演說でもなさいまするならば是非黑を召さなければ。
ですがネ、夜は黑はどうも目立たなくつてイケませんよ。
さようですネー。
あの薄桃の絹でそろへたのがありませう、私は大へん好ですが內海さんは似合はないと仰しやるんです、あれはどうでせう。
よろしう御座いませう。
ダケドモサ、似合ひますかどうですかと云ひますのに。
よくお似合なさいます。
黑とどちらが好いでせう。
仰しやいます通り目立ちますのは桃色のお召で御座いませう。
ダッテサ、どちらにしませう、アーモー四十分になりましたよ、婆やそれじやあ、あれを出して下さい。
桃色の。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

そうです。

其間に下着を着けて手早く用意し婆が持出るを取つて半ば裝ほひ乍ら。

婆や矢張黒にしませう。

さようですか。

早く出して下さい。

更に上は着を着けて鏡に向ひ色合のもようなど連りに考へたるが寧そ之にせんと定めてや悉くボタンをはめたるが上下をながめ合せて二三歩あゆみ乍ら振り反りて背ろ姿を見また急にボタンを外づしたり。

婆や黒の方が好でせうね！。

そりやあ、お人柄がイクラ好く見へるか知れはしません。

殆んど安心したる如く決斷して急ぎ之を裝ほひ乍らも時々鏡に向ひてためらひたり。

お嬢さまもう七時で御座います。

ソウ七時半までに行けば好です、アノ指環は此間のを出して下さい、そして時計の鎖もあちらの首から懸ける銀のにつけに代へて下さい。

ハイ。

香水は……ア、此處にありました、ハンケチは昨日叔父さんに戴いたのがありませう、出して下さい。

ハイ。

ヲヤ〳〵此のヱリドメはちつと動きますは、婆やこれで好いですか。

宜しう御座います。

此帽子はどうですか、少し大き過ぎはしませんか。

イ、エ、ちようど好くお似合なさいます。

イヤダヨ、婆やは何んでも善い善いつて斗かし。

それでも本當に宜しう御座いますから。

アノ鶴吉はもう用意しましたか。

ハイとうから仕度して居ります。

それじやあ婆や行つて來ますよ。

お早くお歸りなさいまし、アモシお父さまは先刻お歸りで御座いましたから一寸とお合ひなすつて。

そうですか。

鶴吉どん、お嬢さまは今まお出懸で御座いますよ。

車の輪、敷きたる小石にきしりて音高し、お早くの聲もろともに距けて行く途端に郵便脚夫門より入り來りて。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ハイ波羅お香さまへ郵便。

チヤ、モー少し早いと宜かつたに。

Thus we see these is a poetic glow of wonder and emotion before science begins its work; there is a larger, deeper, more instructed wonder when it ends.
Shairp.

● 寄書

●文苑　鈴木弘恭大人　撰

新樹妨月　蜂須賀隨子

夏木たちしげる小枝にかくれても　かげはくもらぬ夜はの月かな

螢　藤原けう子

吹かぜに露へこぼれておきかはる　葉すゑの玉ハほたるなりけり

同　土屋光子

軒のをす吹まくかぜにみだれても　消ぬひかりや螢なるらむ

深夜螢　立花敬子

小夜ふけて涼しさまさる池のへを　所得かほにとぶほたるかな

同　土屋蜂子

ふくる夜のほしのひかりかとばかりに　そらにみだれてとぶほたる哉

樹陰螢　水原末瑳子

ゆふ風のわたる川邊のやなぎかげ　散るしらつゆへ螢なりけり

河夏月　高壐延子

夏しらぬ河せによするさゝなみに　ひかりきらめく月のすゞしさ

田家　南部明子

山田もるをちか心のひとすぢに　かよひなれたるあせのほそ道

松有歡聲　間宮八十子

あたらしきとしのをすけて松のかぜ　千代といふことやしらべ初らむ

日光山の御墓に詣てけるとき雨のいたくふりければ　萬里小路周子

雨ふれどみかさときをす人もなし

夏の夜月みむとて友をまねく消息文　波頼淼恵子

いといぶせかりし梅雨の空などりなうはれわたれるに今よひは三五の夜にさへあたりたれは築こしの月もいかになつかしう侍らむ池殿の涼しき水かげをながめつゝ通題にて歌などよまんにはあかずけうぶかきすさびにこそと思ふ給へはべれば夕まぐれより御車よせ玉へねかしあなかしこ

このした露よこゝろあらなむ

卯花の咲たる家を訪ふ　南部たま子

うつせみの世をすて、田舎めきたる所にすめる翁と嫗とありけりひと日それを訪らへんと思ひて二人三人つれ立ていでつるに道すがら山吹のさきみだれたるさまへこれやこがねの里ならんくれにし春のわすれがたみよといひて折かざしつゝゆくにほどなくむくらの門ありこれなんこの心ざすところなめると一人のいへばしか〳〵とうなづきて一人があないこひければ翁のつまならん嫗いできてこなたへといふにみないりぬやがてくさ〴〵の昔今の物語などして興するほどに前栽をみれば卯の花の白うさきこぼれたるは彼の雪の山つくれる心ちしてをかしうみゆなつかしき花もやとゝめきつるにこゝはいつしかと夏になりにけりれいの田長の一こゑさへもゝらすべきけはひなればあるじの翁ほとゝぎすをまつといふ題を出してこれよみたまへとゞしのびにだにもゝらし侍らむといふに一人がわれは歌へおぼつかなし何でふことしてんうしろめたしやとくるしがるもをかしやがて嫗のいふやうかゝるすみかはまゐらすべき物もはべらずいでものし給へこへ翁のかみつるなりとて御酒とうでゝすゝむれば杯めぐらしてくるゝまであそびたはふれぬこよひへ月なき夜なりまたこそまゐらめといへばさてはつれなしやうの花の雪にあとつけたまへとゞさのみやはとゞむるみさらばとてまろうどもあるじもゑひみたれてうたひまひつゝはてへかたみに心ちよげにふしたりき

郭公あひやどりしてこゝにねん卯花がきの一夜ばかりは

水邊納涼乃記　間宮八十子

かしこくてりわたれる日かげにたへかねて小舟にさをさしてそこはかとなくさしのぼればいさごしろう水あをう風さへきよう吹わたりて此の世の中の心ちもせずこゞしきいはほのかげにむやひしてせがゐの水などうちすんじ清きながれをくみて茶をにるにそのあぢは例よりもまさりもたりしあふぎもわすられて蟬の羽ごろもいとかろし又ひさごの酒をとりいづればあゆつりてかへる舟みさかなはこれよけんといひがほにさしよするを見れば松江のすゞきよりもけなり茶にさけにさかなに友ありてかくることなきよやまとのへさらなりから歌をさへつゞしりのゝしるいとおもしろしくれゆくほどに月東の山のはよりいでゝ川波にうつるかげの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

まろかるもくだくるも水のこゝろにまかせたるあなすゞしやかゝるをかしきせうやうもやるかたなきあつさの中だちよと思へばうれしさすがに、くみがたくて

栽松　大野定子

何がし中納言へながからぬ花のよはひをいみじう惜み玉ひて泰山府君とかした、かなる祈をさへし玉ひけむ櫻町ゐはあらであれのみまさる我宿へいとさうぐしきにたのもし人さへ久しうをとせぬことのかなしくてながめがちゐのみすぐしつるをり身ちかうならしつる女の童いまはやうくおとなびたるがたつねきてさまぐし山里のものかたりなどするにふと子の日の事などいひ出ていみじき小松を山つとゝて得させつればいとうれしくて我が心のまつはまるしなきものをこれ前栽にうゑてかはらぬ操をばいつかは人に見せなんものとおもふにも彼の中納言にはやうかはりたるはかなき心になん

○聽子規有感

小石川小日向臺町長榮女塾　壹岐定女

夫れ人として、定れる見識なくば、愚なる譏りは免れ難けれど、さはとて、善惡見定る、事も無くして只管に、舊にあずみ、世運の變遷をしも知らざるは、智慧人とは言難し、古語にも、樞戸ハ雕ず、流るゝ水は腐すといへり、物に通して、理を悟り、惡を捨てゝ、善を取り、故を温ねて、新らしき事物の眞理を推し究むるは、開化の國の慣例なり、移るを知らす、化するの、道なき頑固の人ハ、世よ棄てられて、あたら己が不遇を喞てり」初音といへば、鶯の、春の初に、愛らるゝものにしあれど、如月の、中院にこれを、聞時ハ、時節後の法華經、開化御世に、不適當、佛法の廢物と聞なされ、又移り行く、初夏に、初音待たるゝ、蜀魂聲々血に啼く八千八聲征人羈士の腸をたつといへるも宜ならずや」吾人浮世の旅人にて吾故郷は天にあり歸去へき道筋を敎ゆるものこそ敎あり敎といへバ、あながちに、愚人を導くものとのみ、思ふは敎の咎にして、孔子も、釋氏も、今ハはや、人の耳にハ適しかたし、適するものハ、何物ぞ、ゲッセマ子の花園に血汗の汗を絞られし、基督の聲は子規、十字架上に、身釘て、吾人の罪の、其爲に、千度、八千度泣き給ふ、聞よ人ゝ、はや、聞よ、此聲をしも外よして、聞くべき、ものは、あきぞ、とよ、時節も、恰ど如月の、中院も過て、いつまでか、かくてぞあらん、今しばし、忽にして、聞かされば、はや、吾門を過去りて、彼方の山に、移り給はん、眞如の月は、空にあり、疑念の闇を照しつゝ、正かに愛の姿をば、我目の前に置くにあらずや、聞めて聞を怠る勿れ、勉めて聞を怠る勿れ云

●新報

○禮美女學校　今度東京本郷金助町二十三番地へ設けし本郷禮美女學校は西洋裁縫編物造花裝飾及び西洋料理法より菓子製造菓物貯藏法英學等を敎授する目的にて歐洲より女敎師三名を聘する筈なりと云ふ

○繰糸工女の試驗　兵庫縣蠶糸業取締所にては嚮に繰糸工女技術試驗規則なる者を製し縣知事の認可を經たるを以同縣勸業係員吉田縣屬は取締所の頭取田淵登氏と共に去月十八日より同取締所部内各生糸業者に雇ある繰糸工女無慮三百名の技術を試驗せしが右の科目は纖度延長力、耐重力、繰糸量、屑糸量、蛹襯光澤、切斷、類節、濕度、時限、束糸、問答等にして一科定點を五十點と定め得點の多寡に依り一等より九等に分つ筈なるが現今試驗濟の所にては二等乃至七等の者のみ也と

○入學生徒撰擧手續　福岡縣尋常師範學校女生徒は先頃同縣會の決議に依り二十五名を近々募集する由然るに目下取調中なる同校生徒撰擧手續の發布後にあらざれば細かに其方法を知るに由なけれど聞く所に依れば縣下一般より隨意に志願せしむると云ふにあらずして郡區長の撰擧により各行政郡區より出したる人員中より試驗の上採用する所となるやの說あり

○廣島婦人協會　同會は先頃千田縣知事の夫人加入され且師範學校の女敎師相川平井の二子が最も周旋盡力し追々隆盛に赴く由同會員より來信の端に見ゆ

○上田女子談話會　長州上田なる同會は上田女學校の敎師小林とし子の主唱なり目下會員僅かに十餘名にして未だ盛なりとは思はれざれども會則の嚴重なると會員の熱心とに依り將來必らず見る所あるべしとの事なり

○同志社女學校　にては本年學期に岡島てい、藤井ねい、高田みち、田中いつの四人の卒業生を出したり、又同校にては追々生徒の增加するに付目下大敎場建築中にて本月末落成の筈なり此度更に新師を聘したれば九月よりは大に學科を改良し別科洋服裁縫、音樂、唱歌等をも敎授すると云ふ

○石見津和野　は山間の一城市なり先つ頃より大坂一致女學校の生徒菊地たぬ子富海すゑ子の兩孃當地信徒の需にいらへて夏休業を幸に婦女子をつどへ福音の眞理を傳へ傍ら編物唱歌裁縫など敎へられ七月廿八日の夜兩孃は本町英語研究會場にて婦人演說會を催され婦人百五十餘名の來聽者あり菊地孃の神の存在てふ題にて演說されしは尤も衆聽を感動せしめたり當地に於て束髮は非常に人々の忌み嫌ふ風ありしが近頃は俄に束髮に改むるもの多し又當地には藝妓酒樓密賣淫の如きものなかりしに悲かな二三年前より漸次此等の醜物入り來たり當時は其數を多々增したりと同地稲穂妹子氏より報知

○琴の流行　東京府下にては當時琴の流行甚だしく官吏紳商の家には大抵其彈を聞かざるなき樣なるより府下の琴屋にては需用者の需めに應しかぬるゆゑ追々京都へ注文する向多しと

○桃花女紅場　京都上京九組上立賣東堀川東入る堀の上町淺尾ちゑ子は今度同町へ一の私立女紅場を設け桃花女紅場と稱し裁縫及び習字を專門に敎授致したき旨同府廳へ出願せしか此程認可ありしと云ふ聞く同子は幼年の頃より頗ぶる學事に熱心し裁縫の道にも精しく一時私塾を開き近頃までは各地の學校に勤め居り其道には最も經驗ある婦人なりと云ふ

○彥根女子產業の現況　滋賀縣近江國彥根市街の女子は從來定まりたる常職なく徒らに手を束ねて安閑日を消すの有樣なりしより自然貧窮に陷り非常の困難を覺ゆるの情態なりしが本年に至り貿易縫の會社各所に起り右の女子をして各其業に就かしめたるより目下綿會社の生徒となりし者三百餘名に及び其他製糸場に使役せらるゝ工女四百七十餘名あり而して其賃銀は貿易縫一日一錢より五錢製糸一ヶ月四圓位にして何れも至つて僅少なれども之れを前日無職業の時に比すれば就產したる丈にても亦利益なるものと謂ふべし且女子職業の進歩するは實に賀すべきの事どもなり

○藤岡婦人會　上州藤岡の婦人會は去る十二日午後一時頃より高山養蠶傳習所に於て開會し唱歌及び編物等のすさみもあり終りに茂木孃が婦人會の必要及び母の責任に就きての談話あり同四時頃閉會せしが同日は綠野多胡兩郡長佐々木三郎氏にも臨席の筈なりしか都合によりて臨席なかりしは實に遺憾なりしと同地より報

○小供のはな誌　幼稚敎育の大切なる事は屢々本誌上に於て忠告せし處にして其方法も種々の手段を要すヿをも揭載せし處なるが此度府下芝區南佐久間町二丁目壹番地の幼談社より題號の如き雜誌を發行し專ら世の兒童をして岐路に迷はざらしめんヿを勉むと誌中載する者は悉く面白き談話躰になし每ページ挿畫を加へて兒童の之を讀を樂むよう編みなせり本日發兌の第一號には勝海舟伯始め諸家の祝辭もあり尙ほ向后特約を以て屢々諸大家の投稿もある趣なれば愛息愛孃方の爲に購讀せしめ玉ひなは頗る鴻益あらん

●海外女事

○ウイルラルド都　米國婦人禁酒會の會頭ウイルラルドの事に付ては屢ば記載したるが此度テキサス州内に出來たる一つの新都にては同孃の名譽の爲として其都をウイルラルド都と稱したり

○大學學生　カリフホーニア州のミスイサベルラプリンス孃は佛都パリに於ける東洋語學校（荒比亞語及ペルシア語を敎ゆ）に入校したる最初の米國婦人なり

○デラワルの法律　米國のデラワルにては同所の婦人禁酒會員の盡力に依り女子の保護年齡を十五歲迄となし不正の文書を嚴禁し公立學校にて禁酒學科の敎授を爲すヿ等の法律を新に設くるに至りたり

○印度の女學士　印度即ち天竺の女學士パンヂタラマバイと云へるは去年來亞米利加に來り居るゝが此頃印度婦人の事に付き大演說を催したり尙ほ同女は之れより印度へ歸り同所の寡婦を敎育するが爲に學校を創立すべき計畫なりと云へり

○皇偶の肖像建設　過般來英國の貴婦人淑女等は即位第五十年祝祭のために奇附金を募集し其金額已に八万磅の巨額に達し之を五十年祭婦人基金と名げしが此金額の幾分を以て皇帝の偶故アルバルト公の肖像を製造献納するヿに決したり乃ち皇帝親ら其建立の地をアスニット及びウインドソルの仲間なるスミツス、ローンと定められ七月十四日午後六時を期して右肖像の定礎式を行はせらるゝ旨仰出されたり此式には國内各地より婦人代表者を參列せしむるとなるべし皇帝には又右五十年祭基金の内より右肖像の費を支辨して後其剩餘額を慈善の目的に充てんとの御望にて其金委員等の意見を問はせ玉へりといふ（去月四日スタンダード）「本年本月十三日官報」

○婦人禁酒會　近着の米國ヂカゴ府ゼ、ユニヲン、シグナール雜誌を見に今日世界中至る所禁酒會の設あらざるはなく支那安南印度等の節酒會も今度英國倫敦なる同會へ加盟したりとありたり因に記す麴町中六番町の同會も今度倫敦萬國基督敎婦人禁酒會に加盟したりと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

特別廣告

東京婦人矯風會々員姓名宿所表（第二回）

中六番町七番地		小崎千代
同　同		小川とく
三番町六十三番地		串田げん
同		同　こう
四谷區の部		
南伊賀町五十四番地		上田茂
簞笥町五十三番地		瀬川しづ
同		廣瀬うめ
南伊賀町四十四番地		篠原たき
同五十四番地	特	鵜殿繁吉
仲町二丁目十一番地	同	小野山興
本村町三十三番地服部方	同	宮城愛子
傳馬町一丁目十六番地	同	木津作知
牛込區の部		
市ヶ谷仲町三十六番地		加藤久
同町八番地		大嶽見よね
赤城本町		小島さよ
市ヶ谷仲町三十六番地		加藤さし
同谷町百二十番地	特	世良田のぶ
南山伏町七番地		斉尾こと
下宮比町四番地	特	伴よし
同	同	同　とめ
市ヶ谷仲町三十六番地	同	加藤勝猶
小石川區の部		
小日向臺町五番地長榮女學校		櫻井さく
竹島町三十三番地		越川たか
水道端二丁目二十四番地		牛島とり
水道町五十四番地		荒木千代
同		朝倉玉樹
同町六十八番地		小島みち
小日向臺町五番地	特	淺井元光
本郷區の部		
駒込西片町十番地		海老名みや
麹町區飯田町明治女學校		青木まさ
弓町一丁目二十六番地		森島いそ

廣告

田口卯吉君結髪沿革附録○和崎義路君校○巖本善治君跋

渡邊鼎君著

束髪案内

美製小本八十頁細圖入 定價十五錢郵税四錢也

常今束髪流行の折柄其結び方不案内の婦人尠からず此書は日本婦人に適する束髪二十餘種の結び方を丁寧に教へ一々細圖を附して親切に案内すれば何如なる僻遠の地に在りて束髪の風を知らざる人々も之に依て容易に自ら試るを得べし特に田口卯吉君の論文束髪會の規則其外をも添へたれば結髪改良に志ある人々は宜く一讀あるべし

○鈴木弘恭君講述○山村亮作君筆記

つれ〴〵草講義

定價十二錢 郵税四錢 第一號

右は鈴木弘恭君の講義ありたるを山村君の筆記せられたるものにして其解釋の綿密なる一本を机上に備ふる時は五里の霧中を出でゝ靄晴朗々たるの天色を見る心地す四方の貴嬢諸子請ふ續て講讀あらん事を

○統計局次長世良太一君序○統計協會議員吳文聰君序○朝野新聞記者横山雅男君著

婚姻論

○定價一冊三十五錢郵便税十四錢

右は横山君が得意の統計學上より婚姻の定義其外早婚晩婚雜婚離婚などすべて婚姻に關係する事物は擧げて殘す所なく論の確實なる擧例の精密なる世の父母たるものも亦た青年の男女の方々必讀の書なり

東京新橋日吉町八番地

女學雜誌社

同志社女學校高等普通豫備幷ニ別科生徒募集廣告

本校ハ從前ノ學科ヲ改正シテ高等普通及ヒ豫備ノ三科ト爲シ一層課程ヲ高尚ニシ有益ナル女子ヲ養成スル所トス且ツ米國ヨリ女教師ノ來着アレハ更ニ別科トシテ割烹、裁縫、編物、音樂、會話科等ヲ置キ便宜ニ從テ專修セシム共ニ來ル九月十九日ヲ以テ開業シ入學試驗ハ十五日ヨリ執行ス志願ノ淑女諸氏ハ九月十五日迄ニ申越シ有之度規則書ハ郵劵二錢御送附アラハ早速遞送可仕候

西京同志社女學校

遞信省認可

女學雜誌大賣捌擴張廣告

弊堂義今般本社ト特約ヲ結ヒ大勉强ニテ賣捌仕候間何卒倍舊
續々御愛讀之程伏テ奉希上候也

特別大賣捌

長野縣北佐久郡小諸町
書肆 望月堂 小山佐傳治

同縣南佐久郡留町
書肆 誠信堂 依田儀三郎

全

小子儀今回出京赤阪病院ニ從事シ傍ラ自宅ニ於テ婦人及小兒科ヲ治療ス

赤阪區氷川町四番地勝氏邸内
三田村敏行

▲雲南本口 上等麝香廉賣

盈は廿五錢より
皮は廿錢より

○麝香は一種無比の良香を有するか故に古來我日本及ひ支那の如きは勿論近今西洋諸國にても頗る之を愛珍するに至りて夫の薔薇等と共に香貝上最高の地歩を占めり我國現時文運大に開け婦人亦交際塲裏に馳驅するの秋とは。。。。。。。。。。。。ありぬ貴婦人方は常に之を携帶して汚臭の襲侵を防かせらるれは啻に衛生の益のみにあらす亦交際上一個の必用品あり何卒御試用の上御佳評奉願上候也

本店 東京神田區小柳町六番地（昌平橋通）
森島松兵衛

發兌

八月。六日 十三日 二十日 廿七日
九月。三日 十日 十七日 廿四日
十月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十一月。五日 十二日 十九日 廿六日

定價

一册。五錢 郵税。一錢（但府内無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢（同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行 一回（廿七字詰）前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○同日本橋區新肴町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱伴吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地
女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY